

2025年度(4月入学・10月入学)
鳥取大学大学院連合農学研究科(後期3年だけの博士課程)
外国人留学生特別入試(私費外国人留学生)募集要項

鳥取大学大学院連合農学研究科は、鳥取大学大学院持続性社会創生科学研究科、島根大学大学院自然科学研究科及び山口大学大学院創成科学研究科農学系専攻の修士・博士前期課程の講座と附属施設を母体として編成され、各構成大学の研究科と密接な連携協力のもとに運営されている。

本研究科では、農学及びその関連分野に関しての課題探求能力と豊かな学識、高度な技術を備え、科学技術の発展と地域あるいは国際社会の要請に貢献できる研究者や高度専門職業人を養成することを目的とし、(1)生産環境科学専攻、生命資源科学専攻及び国際乾燥地科学専攻の各専攻分野で必要とされる基礎知識と学力を有する人、(2)より高度な専門的知識や技術の獲得、さらにそれらを応用した独創的な研究に取り組む意欲のある人、及び(3)科学技術の発展と地域や国際社会の要請に寄与したいという強い意欲のある私費外国人留学生を求めており下記により募集する。

本入試は以下の特別プログラムを志望する私費外国人留学生(編入学生)の募集も兼ねる。

・持続可能な開発目標に貢献する乾燥地農学特別プログラム

目的:持続可能な開発目標に貢献する乾燥地農学特別プログラムは、乾燥地の農業・環境保全から地域開発までの総合的な教育研究体制のもとで、持続可能な開発目標を踏まえた自国の発展に寄与する人材の養成を図る。

・菌類きのこ資源利用科学特別プログラム

目的:菌類きのこ資源利用科学特別プログラムは、菌類きのこ資源利用科学に特化した高度な教育と研究を行うことにより、菌類きのこ資源利用科学研究を推進することのできる人材養成を図る。

鳥取大学大学院連合農学研究科のアドミッションポリシー

鳥取大学大学院連合農学研究科は、中国地方の鳥取大学、島根大学、山口大学の3大学から構成されており、平成元年に後期3年の博士課程として設立された。

鳥取大学大学院連合農学研究科では、次のような人を広く受け入れる。

(1)生産環境科学専攻、生命資源科学専攻及び国際乾燥地科学専攻の各専攻分野で必要とされる博士前期課程相当の基礎知識と学力を有する人、(2)より高度で豊かな専門的知識・技術及び俯瞰的な広い視野の獲得、さらにそれらを応用した独創的な研究に取り組むことを志す人、(3)社会的責任感に基づく高い倫理観を身につけ、科学技術の発展と地域や国際社会の要請に寄与することを志す人、及び(4)地域、国際社会が直面する問題に対処するための専門的かつ高度な課題発見・解決力及びコミュニケーション力を身につけ、専攻分野の研究を先導することを志す人。

連合農学研究科では、これらの人を受け入れるため、出願書類(研究計画書を含む)及び口頭試問により多角的かつ総合的な評価による選考を行う。

各専攻が求める人材像は以下のとおり。

【生産環境科学専攻】 農林業における生産・流通・消費、農林業の生産環境、及び森林・流域環境に関わる諸問題に関心があり、これらの諸問題解決に組みたいという強い意欲のある人。

【生命資源科学専攻】 動物、植物、菌類等が備える多様な生命機能に対して高い関心があり、その分子レベル及び遺伝子レベルでの解明と、資源としての幅広い利活用

を視野に入れたバイオサイエンスに関わる先端的研究分野に挑戦したいという強い意欲のある人。

【国際乾燥地科学専攻】世界の乾燥地における環境や食糧等に関わる諸問題に関心があり、幅広い視野と専門的知識・技術を生かして国際的に活躍したいという強い意欲のある人。

1. 専攻分野及び募集人員:

(1) 専攻分野:生産環境科学、生命資源科学、国際乾燥地科学に関する研究分野で、鳥取大学大学院連合農学研究科の主旨指導有資格教員に研究指導が受けられるものであれば、何れの分野であってもよい。

(2) 募集人員:私費外国人留学生 若干名

2. 出願資格及び条件:

(1) 国籍:日本政府が承認する国(なお、新たに海外から留学するものであること。)

(2) 年齢:年齢は問わない

(3) 学歴:修士の学位を取得した者及び2025年4月入学希望者は同年3月末日まで、2025年10月入学希望者は同年9月末日までに取得見込みの者

(4) 健康:心身ともに大学院における学業に支障がないこと

(5) 語学力:研究指導等は主として英語又は日本語で行うことから、英語又は日本語能力が十分であること

(6) 渡日時期:2025年4月入学希望の合格者は同年4月1日から4月7日まで、2025年10月入学希望の合格者は同年10月1日から10月7日までに必ず渡日可能な者

(7) その他:

(A) 所属大学等の研究科長等以上から推薦された者

(B) テレビ会議システム等を用いて対面形式により、口頭試問委員による口頭試問を受けることができる者

3. 出願・試験日程・合否結果:

	期 日	備 考
出 願	2025年4月入学希望者: 2024年6月3日(月)~11月22日(金) 2025年10月入学希望者: 2024年6月3日(月)~ 2025年5月23日(金)	希望主旨指導教員を通して鳥取大学農学部連大学務係に提出すること。

試 験	出願書類提出後 30 日以内に、主指導教員予定者を通して、試験(口頭試問実施)日程を本人に通知する。 2025 年 4 月入学希望者: 2024 年 7 月 3 日(水)～ 12 月 13 日(金)の間で実施する。 2025 年 10 月入学希望者: 2024 年 7 月 3 日(水)～ 2025 年 6 月 27 日(金)の間で実施する。	「5.入学者選抜の実施方法」に定められた方法で口頭試問を行う。
合否結果	試験後 30 日以内に主指導教員予定者を通して本人に通知する。	合格者には「合格通知書」を送付する。

4. 応募手続:

応募者は、下記の書類を出願期間中に、希望主指導教員を通して鳥取大学農学部連大学務係に提出すること。

- (1) 入学願書(様式第 1 の 2 号) 正本 1 部
- (2) 写真 1 枚:入学願書に貼付。上半身・無帽・正面向・3 か月以内撮影のもの(縦 4cm×横 3cm)
- (3) 履歴書(様式第 2 号) 正本 1 部
- (4) 修士課程修了証明書又は修了見込証明書
- (5) 成績証明書:出身大学院の研究科長(又は学長)作成のもの
(様式不問、様式第 3 号でも可)
- (6) 検定料:30,000 円(現金)
- (7) 修士論文等
 - (A)修士課程修了者
 - (a) 修士論文の写(論文がない場合は、これに代わるもの)
 - (b) 修士論文の概要(A4用紙に、和文の場合は2,000字程度、英文の場合は1,200語程度で記入。表紙に様式第 5 号を使用。)
 - (B)修士課程修了見込の者
 - (a) 研究経過報告書(A4用紙に、和文の場合は12,000字程度、英文の場合は5,000語程度で記入(図表を含む))
 - (b) 研究経過報告書の概要 ((A)-(b))に準じて作成、表紙に様式第 5 号を使用。)
- (8) 研究計画書:入学後の研究分野・研究内容について A4 用紙に記入。
(表紙に様式第 6 号を使用。)
- (9) 志願理由書:本研究科を選択した動機、今後の目標や目的を A4 用紙に記入。
(表紙に様式第 7 号を使用。)
- (10) 自己評価(様式第 8 号):連合農学研究科におけるアドミッションポリシーに対する自己評価を記述する。(日本語 800 字以内、英語 500 語以内)
- (11) TOEFL、TOEIC 又は IELTS 等の英語能力を客観的に示す成績証明書
写し 1 部
- (12) 受験承諾書(様式第 9 号):官公庁、会社等に在職している者のみ
(所属長又は代表者の公印押印)

- (13) パスポートの写し、又は本国の戸籍謄本、又は市民権等の証明書の写し
- (14) 推薦書(入学志願者本人をよく知っている者が作成した推薦書)

【注意事項】

- ① 申請書類は、すべて英語又は日本語により出来るだけタイプを用いて作成すること。
- ② 上記申請書がすべて完全かつ正確に記載されていない場合、付属書類が完全に揃っていない場合、また提出期限が過ぎたものについては受理しない。
- ③ 提出書類の返却はしない。
- ④ 希望する主指導教員名を入学申請書に記入すること。入学申請書に主指導教員名の記入がない場合、出願書類は受理しない。志願者は主指導教員予定者と密接な連絡をとり、出願書類を作成すること。
- ⑤ 納入された検定料は返還しない。

5. 入学者選抜の実施方法:

- (1) 入学者選抜は、口頭試問、提出書類の評価等を総合して行う。
- (2) 口頭試問は、3 名以上(主指導教員予定者を含む各構成大学から 1 名以上)の口頭試問委員がテレビ会議システム等を用いて対面形式により、修士論文等の内容及び研究計画書を中心に 50 分程度(内容説明 30 分程度、質疑その他 20 分程度)実施する。
- (3) 口頭試問の実施方法については、主指導教員予定者が「口頭試問実施方法届」(様式第 12 号)を出願時に研究科長に提出し、代議委員会において口頭試問実施方法の承認を得なければならない。

6. 入学手続等

- (1) 入学手続期間:
 - (A) 2025 年 4 月入学希望の合格者は、2025 年 3 月上旬頃に予定。
合格者には後日連絡する。
 - (B) 2025 年 10 月入学希望の合格者は、2025 年 9 月上旬頃に予定。
合格者には後日連絡する。
- (2) 入学時に要する経費
 - (A) 入学料:282,000 円(予定額)
 - (B) 授業料:(後期分)267,900 円(予定額) [年額は 535,800 円(予定額)]
※入学料、授業料は予定額。入学時及び在学中に改訂があった場合は、改訂後の入学料、授業料を徴収する。
 - (C)①学生教育研究災害傷害保険制度(以下「学研災」という。)及び学研災付帯賠償責任保険(学研賠):この保険は学生の正課中及び課外活動(キャンパス内)中における不慮の災害事故によって、身体に傷害を被った場合の補償制度であり、全員加入としている。保険料は、3 年間分で 3,620 円である。
②留学生用保険(タイプ E):この保険は、(1)個人賠償責任:他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊した場合、(2)救援者費用等:ケガや病気で3日以上入院して、ご家族が駆けつけたときの交通費や宿泊費の支払いを補償、(3)生活用動産:日本で本人が所有する家財に対して火災や盗難等により損害を受けた場合の補償、(4)借家人賠償責任:日本で本人が住んでいる居室を火災や水漏れ等の偶然な事故により損壊させた場合の補

償する保険である。

(学研災と異なり、補償の時間帯や場所についての限定はない)保険料(3年間):9,270円

【注意事項】

医療費補助制度:日本の医療制度の一つに、国民健康保険制度がある。この制度は医療費の一部を負担する。居住地の市役所で国民健康保険の加入手続きをすることにより医療費の自己負担額は、治療費の30%となる。(例外有り)

7. 研究指導:

- (1) 研究指導等は主として英語又は日本語で行う
- (2) 在籍身分は正規の大学院生である。学生は構成大学の教員(主指導教員1名及び副指導教員2名)により研究指導を受ける。学生は、主指導教員が専任として在籍する構成大学に配置され研究指導を受けるが、他の構成大学の施設・設備も利用することができる。

8. 注意事項:

- (1) 提出書類等の記載事項に虚偽の記入がある場合は、入学後でも入学許可を取り消すことがある。
- (2) 留学生は渡日に先立ち、日本の風土、習慣、気候、大学の状況についてあらかじめ研究しておくことが望ましい。また、日常生活は日本語での生活になることについて十分理解しておくこと。

【問い合わせ先】

〒680-8553 鳥取市湖山町南 4-101
鳥取大学大学院連合農学研究科(農学部連大学務係)
TEL:0857-31-5446 FAX:0857-31-5683
E-mail:ag-rengaku@ml.adm.tottori-u.ac.jp

【構成大学の所在地】

鳥取大学

〒680-8553 鳥取市湖山町南 4-101 鳥取大学農学部
TEL:0857-31-5446 FAX:0857-31-5683

島根大学

〒690-8504 松江市西川津町 1060 島根大学生物資源科学部
TEL:0852-32-6492 FAX:0852-32-6499

山口大学

〒753-8515 山口市吉田 1677-1 山口大学農学部
TEL:083-933-5800 FAX:083-933-5820

主指導教員となり得る者の教育研究分野一覧

※：国際農林水産業研究センターとの連携

1. 生産環境科学専攻

(1) 農業生産学連合講座

荒木 英樹 (山口)	栽培学	不良環境下における作物の生産機能とその栽培学的応用
小林 伸雄 (島根)	園芸育種学	植物遺伝資源の評価と育種利用
高橋 肇 (山口)	作物学	作物の省力・低投入型栽培体系の確立に関する研究
竹村 圭弘 (鳥取)	園芸生産学	園芸作物の栽培生理に関する研究
田中 裕之 (鳥取)	植物遺伝学	小麦粉品質の改良に関する遺伝育種学的研究
鶴永 陽子 (島根)	食品加工学	食品加工における製造方法と機能性に関する研究
中務 明 (島根)	園芸分子育種学	園芸作物における有用形質関連遺伝子の解析と育種利用
野波 和好 (鳥取)	農業生産工学	農作業の機械化に関する研究
松本 真悟 (島根)	土壌・作物栄養学	土壌肥沃度に対応した作物の養分獲得機構の解明
松本 敏一 (島根)	果樹園芸学	果樹栽培と加工品に関する研究
谷野 章 (島根)	生物環境電気工学	生物環境関連技術への電気工学の適用

(2) 経済・経営学連合講座

筒井 一伸 (鳥取)	農村地理学	農山村の地域経済と地域づくりに関する研究
松田 敏信 (鳥取)	消費者行動学	計量経済学による消費者行動の研究、特に食料需要の実証分析
松村 一善 (鳥取)	農業経営学	農業経営と農村社会の相互関係に関する研究
万 里 (鳥取)	流通情報解析学	農産物の流通経路と市場情報の計量経済分析
保永 展利 (島根)	地域経済学	条件不利地域の農地、地域社会、経済の持続性に関する研究
安延 久美 (鳥取)	国際農業開発学	東南アジアにおける農業・農村開発に関する研究

(3) 森林・流域環境科学連合講座

石井 将幸 (島根)	地域基盤工学	水利施設の補修補強に関する設計手法の開発
久保満佐子 (島根)	植物生態学	植物の生態および植生、保全に関する研究
永松 大 (鳥取)	植物生態学	森林・草原の植物個体群動態と植生科学、生物多様性保全
藤本 高明 (鳥取)	木材理学	木材性質変動の解析および計測評価手法の開発
吉村 哲彦 (島根)	森林利用学	森林利用・木材収穫における社会的・技術的諸課題に関する研究

(4) 環境生物学連合講座

荒西 太士 (島根)	保全生態学	水域生物圏の保全遺伝学と進化生態学
上野 誠 (島根)	植物病理学	植物-病原菌の相互作用における抵抗性発現に関する研究
上中 弘典 (鳥取)	植物微生物相互作用学	植物における免疫応答と菌根共生の分子機構の解明
唐澤 重考 (鳥取)	多様性生物学	無脊椎動物の遺伝子・種多様性に関する研究
木原 淳一 (島根)	植物病理学	植物病原糸状菌の光環境応答
竹松 葉子 (山口)	昆虫生態学	シロアリの多様性と生態に関する研究
細井 栄嗣 (山口)	応用動物生態学	害獣および希少動物の保護・管理のための生態学的研究
山口 啓子 (島根)	水圏生態学	ベントスを中心とした生物の生態と水圏環境に関する研究

2. 生命資源科学専攻

(1) 菌類・きのこ科学連合講座

會見 忠則 (鳥取)	微生物生産科学	微生物による食料及び有用物質生産の生化学・分子生物学
霜村 典宏 (鳥取)	菌類育種栽培学	きのこ類遺伝資源の育種・栽培に関する研究
早乙女 梢 (鳥取)	菌類系統分類学	きのこ類の系統分類と木材腐朽性担子菌の生態に関する研究

(2) 生物機能科学連合講座

有馬 二郎 (鳥取)	生命機能化学	微生物・酵素の新奇機能探索とメカニズムの解明、及びその利用
石川 孝博 (島根)	植物分子生理学	光合成生物における抗酸化物質生合成と活性酸素代謝機構
岩崎 崇 (鳥取)	生体制御化学	生体機能を制御する生理活性物質の探索および開発に関する研究
塩月 孝博 (島根)	生物制御化学	昆虫を主な対象とする生物制御の分子機構解明と化学生物学的应用
松尾 安浩 (島根)	微生物遺伝学	分裂酵母のシグナル伝達経路による細胞周期の制御機構
丸田 隆典 (島根)	植物生理学	植物のレドックス代謝ネットワークとストレス応答

(3) 資源利用化学連合講座

阿座上弘行 (山口)	分子微生物学	バクテリアの宿主表面への定着の分子メカニズム
石原 亨 (鳥取)	天然物化学	植物・微生物が合成する代謝産物の機能, 生理活性, 生合成に関する研究
一柳 剛 (鳥取)	有機化学	合成化学的アプローチによる生物活性化合物の機能解明
河野 強 (鳥取)	生物有機化学	環境応答による休眠・代謝・寿命の制御機構
地阪 光生 (島根)	食品機能化学	酵素および微生物による機能性食品成分の機能性の改変
清水 英寿 (島根)	栄養病態生理学	食品由来腸内細菌代謝産物や藍藻類由来毒素による病態発症メカニズムの解明
田村 純一 (鳥取)	有機化学	生理活性糖鎖の化学合成と天然糖鎖の単離・構造決定
美藤 友博 (鳥取)	食品機能学	食品に含まれるビタミンやその他食品成分の生体機能に関する研究
室田佳恵子 (島根)	食品代謝機能学	脂溶性食品成分の生体利用性と機能性に関する研究
藪田 行哲 (鳥取)	栄養科学	抗酸化ビタミンの機能と酸化ストレス応答に関する研究
山本 達之 (島根)	生命分子分光学	分子分光学の生命科学や医療への応用

3. 国際乾燥地科学専攻

(1) 国際乾燥地科学連合講座

明石 欣也 (鳥取)	分子細胞生物学	耐乾性植物のストレス分子応答および環境耐性植物の分子育種
Nigussie Haregeweyn AYEHU (鳥取)	土地管理	流域プロセスのモニタリング、モデリング及び管理に関する研究
安 萍 (鳥取)	植物生理生態学	乾燥地における植物の生理的反応と機構および生態学に関する研究
石井 孝佳 (鳥取)	植物細胞遺伝学	細胞工学的手法による作物の改良
一戸 俊義 (島根)	家畜飼養学	反すう家畜の栄養と生産システムの評価
猪迫 耕二 (鳥取)	水土環境保全学	水土環境の保全と再生ならびに持続可能な利用に関する研究
荊木 康臣 (山口)	生物環境調節工学	環境制御型植物生産システムに関する研究
遠藤 常嘉 (鳥取)	土壌化学	乾燥地域における灌漑農地の塩類動態と土壌劣化に関する研究

緒方 英彦 (鳥取)	水利施設工学	水利構造物の建設材料と構造性能の評価
※岸井 正浩 (鳥取)	植物遺伝資源開発学	環境耐性が高い植物遺伝資源の育種への活用研究
衣笠 利彦 (鳥取)	乾燥地緑化保全学	乾燥・半乾燥草原に生育する植物の生態学および生態生理学
木村 玲二 (鳥取)	境界層気象学	乾燥地における熱収支・水収支の解明に関する研究
黒崎 泰典 (鳥取)	乾燥地気候学	乾燥地における気候変動、風食、ダスト発生、ダストの気候影響
清水 克之 (鳥取)	水利用学	農業用水管理のモニタリングと評価
鈴木 賢士 (山口)	気象学	降水メカニズム解明のための観測研究と降水粒子測定手法の開発
田川公太郎 (鳥取)	自然エネルギー工学	自然エネルギー利用技術の開発と最適システム設計に関する研究
谷口 武士 (鳥取)	微生物生態学	土壌および植物根圏微生物の生態と利用
恒川 篤史 (鳥取)	保全情報学	乾燥地における植物生産および生態系変化のモニタリングとモデリング
坪 充 (鳥取)	気候リスク管理学	乾燥地における農業気象と気候変動対応型農業
西原 英治 (鳥取)	乾燥地作物栽培学	乾燥地を含む地域における作物栽培体系の構築に関する研究
兵頭 正浩 (鳥取)	施設環境材料学	農業水利施設の維持管理と環境を考慮した材料に関する研究
藤巻 晴行 (鳥取)	土壌保全学	乾燥地における塩類集積および土壌浸食の防止と修復技術の開発
山田 智 (鳥取)	植物栄養学	乾燥地における植物のストレス応答機構に関する研究
山本 定博 (鳥取)	環境土壌学	乾燥地における土壌環境の保全と農耕地の持続的利用に関する研究